

05 県庁舎の在り方、新しい働き方の検討に際して留意すべきこと



現在、兵庫県では出勤率4割程度の大胆なテレワーク等の社会実験を実施。これは公務部門で全国初の挑戦だそうです。新しい挑戦は大いに結構かと思えます。まずはやってみなはれであります。

働き方としてテレワークという選択肢があることは、官民間問わず有益であります。通勤に費やす時間やエネルギーをプライベートの充実に充てるのが可能となり、子育てや介護などに合わせた時間の使い方もできることでしょう。このことは優秀な人材の獲得や、これは新規も中途もですし、離職率の低下につながるはずであります。

また、勤務場所が分散することで、オフィス個々における何らかの非常時においても業務が停止するリスクも抑えられるかもしれません。

反面、様々想起される県民目線での懸念は確実に払拭しなければなりません。

GAFやシリコンバレー等、世界のトップ企業の経営者でも5割以上の出勤率を求める例もあるといわれています。こうした海外の状

況なども参考に、自らの運営のみならず、地域経済、地域交通など社会全般に与える影響にも配慮して頂きたいと思えます。

県としてしっかりとした広い視野のもとで、県庁舎の在り方や新しい働き方を検討し、打ち出し方も含めて丁寧に推進していただきたいと考えますが、当局のご所見を伺います。

答弁：No.9 総務部長（小橋浩一）

本県が目指します新しい働き方は、組織のパフォーマンスを最大化し、県民本位での質の高い県民サービスを実現することを目的としております。モデルオフィスは、テレワークの積極的な活用、ペーパーレスに取り組むトライアルの場でして、この実施結果を適切に検証して、新しい働き方を兵庫が先導して実現してまいりる覚悟でございます。心強いエールをいただきまして、ありがとうございます。

ご指摘のありました災害時の対応につきましては、災害対策センターを中心に近隣庁舎も活用しながらそのスペースを確保するということとなりますが、新しい働き方を踏まえたBCPの改定も今現在、見直しを進めているところでございます。

今後とも、地域団体、有識者等の意見を聞きながら、また県の考え方もしっかりと情報発信しながら、県民サービスの向上と県庁周辺の魅力向上、この視点で取組を進めてまいります。引き続きのご指導、よろしくお願いたします。

関西広域連合議会（令和5年11月16日）

06 瀬戸内・大阪湾の水産業の振興について



私は、瀬戸内・大阪湾の水産業の振興について、この1点に絞りましたお伺いを致します。

今、大阪湾の海産物は、危機に瀕しております。湾西部、明石海峡側に迄は栄養分が回ってこないの、貧栄養状態がひどくなっています。須磨から垂水、明石では、ノリの養殖が盛んでありますが、長年の環境規制の結果も響いて、こここのところ栄養不足による色落ちが、春先を中心に目立つようになりました。また、垂水、明石の漁場も栄養不足で不漁になっています。アナゴも、タコも少しかりです。春先の風物詩と言われたイカナゴ漁に至っては、今や壊滅状態に陥っています。

さて、昭和の高度経済成長時代に発生した公害問題を契機に、大阪湾イコール汚な過ぎる死の海、汚い、臭い、こうした悪いイメージが定着しました。その後環境政策の強化によって、今や清きに過ぎる。海水がきれい過ぎて生物が棲めないという、新たな死の海の局面を迎えているのですが、いまだ汚いというイメージが払拭できていません。内陸部に居住する人々には、まさに近くて遠い大阪湾となっております、残念ながら実態、現状はほとんど知られていません。だからこそ、水質環境の設定に際しては、実態、現実を知らずに間違ったイメージを抱いたまま声を上げてくるような人、そしてまた環境となったら、大きな声を出してくる方、そのような声に、現状と外れたそのような声に流されるということは、断じてあってはならないと考えております。

現在、四半世紀、25年先までの歳月を縛る大阪湾の流域別下水道整備総合計画、いわゆる「大阪湾流総計画」の改訂に取り組んでいます。この計画は、府県を跨ぐため、近畿地方整備局が調整を行っています。

そこで、瀬戸内・大阪湾漁業の復活に向けまして、大阪湾流域計画の改訂における窒素量を現行のリットル当たり8mgからリットル当たり40mgへと引き上げる取組と、漁獲量復活に向けた取組等について御所見を伺います。

答弁：広域農林水産担当委員（岸本周平 和歌山県知事）

吉岡たけし議員の御質問にお答え致します。水産業の振興のためには、漁獲量の増大と漁家経営の安定化を図ることが何より重要であると考えております。

そして今、大変重要な御指摘を吉岡たけし議員から頂きました。瀬戸内海・大阪湾における栄養塩不足の影響についてでございます。瀬戸内海環境保全知事・市長会議におきまして、水産資源にとって適正な環境確保のための栄養塩類供給の推進の提案を関係省庁に対して行っておられるというふうにと伺っております。関西広域連合と致しましても、今後とも関係団体との情報共有を図るとともに、国とも連携しながら、吉岡たけし議員が今御指摘下さいましたような事をしっかりと踏まえまして、豊かな海づくりに向けて、地域ごとに必要に応じた取組を促進して参りたいと考えております。御質問ありがとうございます。

コメント：吉岡たけし議員

今、職掌に応じた御答弁を頂きました。広域連合長からの環境の答弁を頂きましたのですけれども、この場にいらっしゃる府県市、それぞれの行政の長の方々に、自らの手の中に25年先の、四半世紀先の、この関西全体、そして日本のたんぱく質源、そしてまた、この地域の漁業の未来がかかっているんだと。うちの内陸だから関係ないと、そのような事ではなくて、皆様方の手の中に日本の漁業の将来が握られている。この事を認識して頂きまして、流総計画について皆様方の部下の方にもしっかりと指示を出して頂きたい、この事をお願いして、質問を閉じます。ありがとうございました。

よっしープレスは、垂水の「よっしー」こと、兵庫県議会議員

吉岡 たけし の報告紙です。

くらし満足度No.1の垂水を目指して、神戸市垂水区と兵庫県政をつなぐことを目的に、兵庫県の政治を分かりやすく伝えます。



- プロフィール
 - 1962年10月13日生まれ
 - 灘中学・高校卒
 - 早稲田大学法学部卒
 - アンリツ(株) 官公営業部
 - 千代田火災海上保険(株) 横浜支店・神戸支店
 - 衆議院議員 秘書
 - 参議院議員 政策担当秘書
 - 2015年 兵庫県議会議員選挙初当選
 - 産業労働常任委員会委員、建設常任委員会委員
- 自民党県議団 政務調査副会長
 - 警察常任委員会副委員長
 - 2019年 2期目当選(17,392票)
 - 総務常任委員会副委員長
 - 自民党県議団副幹事長
 - 総務常任委員会委員長
 - 2023年 3期目当選(19,741票)
 - 建設常任委員会委員長
 - 自民党神戸市垂水区第一支部長

01 「よっしーのはなし」をいたします。負担を押し付けない県政を実現させます。

神戸市と兵庫県。2重行政をなくして、効率的な行政の推進を進めています。益々、事業の選択と集中を本格化させて、引き続き新たな改革マインドで、将来に負担を押し付けない県政を実現させたい!!どこよりも夢叶う躍動する兵庫の実現に向けて頑張ります。垂水区内各地で(街頭、ミニ集会等)県政報告をいたします。

02 ご意見・ご相談等については下記までご連絡ください。

兵庫県議会議員 吉岡たけし事務所 〒655-0034 神戸市垂水区仲田1-8-24-101
TEL：078-708-8600 FAX：078-708-8610

発行日：2024年3月31日 兵庫県議会の様子をインターネットでご覧いただけます。
発行元：兵庫県議会議員 <https://www.hyogokengikai.jp/broadcast/index.html>

吉岡たけし事務所 インターネット放映中 本会議の代表質疑・委員会での質問などが手軽にご覧になれます。

<https://take-yoshioka.com> ※ホームページをリニューアルしました。

第364回定例会（令和5年9月28日）

01 兵庫県瀬戸内海の漁獲量復活のため県がなすべきこと

令和5年7月27日、県公館にて、ひょうご豊かな海づくり県民会議が設立され、齋藤知事は県民総参加の豊かな海づくりへと発展させる出発点だとして挨拶されました。

兵庫県の瀬戸内海をほんまもんの豊かな海へ、漁獲量の復活を図るためには、平成6年、7年当時の海を目指したいわけであり

ます。

海に供給されている窒素発生負荷量の約4割は下水処理場からの放流水であり、行政が負荷量の数値をコントロールできる大きな部分であります。だからこそ、下水の放流水質基準を定める流域別下水道整備総合計画、いわゆる流総計画は、豊かな海の再生、漁獲量の復活を目指す上で極めて重要な計画となります。

兵庫県は平成30年に策定した播磨灘流総計画において、全国で初めて冬場の窒素排出量を増加させる季節別運転を位置付けました。

そして現在、四半世紀、25年先までの歳月を縛る、大阪湾流域



神戸市 垂水処理場

兵庫県議会議員(神戸市垂水区) 建設常任委員会 委員長 自民党県議団 建設副部長

吉岡たけし

よっしー PRESS

令和6年 第1号

よっしープレス Vol.15 / March 2024

CONTENTS

第364回定例会(令和5年9月28日) 質問等 要旨

- 01 兵庫県瀬戸内海の漁獲量復活のため県がなすべきこと
- 02 闇バイトの沼へ落ちない、飛び込ませない。
- 03 垂水区をはじめとした神戸市最西部エリアの観光誘客の拡大
- 04 生成AIの本格導入の早期実現
- 05 県庁舎の在り方、新しい働き方の検討に際して留意すべきこと

関西広域連合議会(令和5年11月16日) 質問等 要旨

- 06 瀬戸内・大阪湾の水産業の振興について

15

県政



計画の改定に取り組んでいます。大阪湾流域計画の改定においても、兵庫県としては窒素の放流水質について県漁連の要望値でもある40ミリグラムパーリットルに近づける流総計画を策定すべきと考えます。あわせて、播磨灘においても今後、冬場だけではなく、通年で窒素の放流を増加させる取組を進めていくべきです。兵庫県の瀬戸内漁業の復活に向けて、兵庫県当局も部局の垣根を越え、農林水産部を中心に土木部、環境部ともスクラムを組み、不退転の決意を持って全力で各方面に向けて動き回っていただきたいと思えます。窒素増量に向けた取組と漁獲量復活に向けた取組等についてご所見を伺います。

答弁：知事（齋藤元彦）

瀬戸内海の漁獲量復活について瀬戸内海では、議員ご指摘のとおり、海域の栄養塩類、とりわけ窒素濃度の低下が漁獲量減少の一因となっております。令和3年、改正瀬戸法に基づきまして、

昨年10月には栄養塩類の管理計画を策定し、水質の目標値を設定しました。その実現に向け、下水処理場や工場などからの窒素増量に取り組むほか、漁業者が行う海底耕うんやため池のかいぼり、肥料による栄養供給の試験などを支援しております。特に下水処理場では、播磨灘流総計画で位置付けました24処理場につきまして、栄養塩類の管理運転が実施されています。

今後、更なる増加に向けまして既に5施設で実施されている通年での管理運転の導入を、管理者である市町に働きかけていきたいと考えております。

また、令和7年の策定に向け、国の調整のもと、各府県とともに計画中であります大阪湾の流総計画でございます。窒素の放流基準を県では播磨灘での知見や実績を踏まえまして、また漁業関係者の声もしっかり受け止めながら、更なる引上げを国に要望してまいりたいというふうに考えております。

引き続き、県民会議などを通じ、計画の目標の早期実現に向けた取組を県民総参加で実現してまいります

再質問：吉岡たけし議員

再質問を1問だけさせていただきます。今回のこの大阪湾流総計画におきましても、農林水産、これは本部でありますけれども、土木部の下水道課の方や環境部の皆さんも、やはり何を見ている

のか、県の為政者であるトップリーダーがどれぐらい腹をくくってらっしゃるのか、そこを見ているかと思えます。なかなか知事のお立場で、40ミリグラムパーリットルという数字まで言いにくいのはよく分かりますけれども、私は腹をくくってこの問題を前へ進めるんだと。

一言腹のくくりようだけご答弁いただければ幸いです。お願いします。

再質問の答弁：知事（齋藤元彦）

9月の先週ですね、先日漁連のほうからの要望書も拝見させていただいています。播磨灘については県のほうの条例に基づいて今しっかり40ベースでやっているというところでございますが、大阪湾については、兵庫県だけじゃなくて関西府県のやっぱり合意形成のもとできちっとやっていくということが大事ですけども、やはり大阪湾の西部、神戸の西部とか、その辺りの漁獲量が、ノリの色落ちも含めて深刻であるということを含めて、これはきっちり国とともにやっていくということです。

それで、県庁内も土木部と農林水産部、それから環境部も含めて、しっかりスクラムを組んで対応していきたいというふうに考えています。

罪に加担してしまった場合でも、兵庫県警の相談電話等に電話をして、助けてくださいと相談すれば、おどされていても、かなりの難しい局面からであってもまだ引き返せる。今より悪くなる、困ることはない、この事を知って欲しいのであります。

相談を受けられた県警が適切に導いて頂くのは勿論ですが、相談にたどり着くまでの周知について、県としても責任を持って、県警察と緊密に連携を取りながら広く市町とともに取り組んで頂きたい。大々的に、徹底的に、あらゆる手段で高頻度に周知して頂きたいと考えます。当局のご所見を伺います。

答弁：No.13 県民生活部長（井ノ本知明）

闇バイトにつきましては、一つとして、危険を未然に見抜くための平時からの啓発、二つとして、犯罪に至る前の水際対策、そして三つとして、更生と再犯防止の三つの面から重層的に対応していくことが重要と考えております。

平時の対策としましては、県警におきまして、県下各地の中学・高等学校において非行防止教室等を実施し、ているところです。

水際対策としましては、県が実施しておりますひょうご地域安全SOSキャッチ電話相談を周知致します。県警では、闇バイトを募集するSNSの投稿をAIが自動検出するシステムを導入・運用し、闇バイトの募集を行った者に対して、警告メッセージを発出しているところです。

さらに、再犯防止につきましては、今年度から新たに法務省と連携しまして、少年鑑別所の入所者を対象に、闇バイトは犯罪であるとの認識を促し、闇バイトを遠ざける方策等を周知していくこととしております。

今後、市町や県警、大学との連携のもと、エックスやインスタグラム等、それぞれのSNSツールでの啓発を始めまして、コンビニ、携帯ショップ等での注意喚起など、若者を対象としたあらゆる機会を通じて、闇バイトの現実と危険性、そして相談窓口について一層の周知に取り組んでまいります。

03 垂水区をはじめとした神戸市最西部エリアの観光誘客の拡大

神戸市最西部エリアの地域経済の活性化に向けて、具体的には飲食業、各種物販業やサービス業全般にわたり、交流人口の増加を図ることが、これまで以上に重要な意味を持つと考えております。令和3年10月30日、舞子の地から神戸を盛り上げようと、世界のパールブリッジを愛する会in KOBE舞子という会が立ち上がりました。

神戸県民センター長からは、垂水区、西区、須磨区といった西部も主役となるよう、今後頑張っていく、こうした旨の言葉がありました。今回「絶景！舞子浜・明石海峡大橋と豊かな海を丸ごと体感～人と自然が共生する未来のまちづくりへの挑戦～」が、ひょうごフィールドパビリオンに選定されています。ほかに、下畑の地では、BE KOBEを発信しようと私費を投じた方もおられますし、塩屋エリアでは回遊を楽しくさせてくれる各種新店舗も続々オープンしてきています。

源氏物語にもゆかりのあるこの垂水の地。また、この神戸市最西部の地には、追灘や弓引き等の伝統行事を今に伝える寺社仏閣、源平合戦こと、治承・寿永の乱にまつわる史跡や、もっと時代を遡った五色塚をはじめとする古墳や遺跡も多数ございます。

地元のやる気が満ちてき



た今だからこそ、兵庫県におきましても、大阪万博のフィールドパビリオン以外にも、神戸市と歩調を合わせてぜひとも垂水区をはじめとした神戸市最西部エリアの観光誘客の拡大につながるような施策を様々な切り口で仕掛けていくべきだと考えますが、当局のご所見を伺います。

答弁：知事（齋藤元彦）

垂水、須磨など神戸市の西部は海と山のロケーションにも恵まれ、神戸三宮、大阪などからのアクセスも便利で、大変足が伸ばしやすいというところがございますし、私の生まれ故郷でもございますし、大変すばらしい地域だというふうに思っております。

このエリアは、まさに美しい砂浜、それから松林が広がる海岸ですね、須磨海岸もそうですけれども、明石海峡大橋のほか、気軽に安心して釣りが楽しめる海釣り公園、これは改修中でございますけれども、大正のモダンが味わえる旧ジェームス邸など、見どころが多いというふうに考えています。

特に、大阪湾から明石海峡大橋、そして淡路まで一望できる五色塚古墳は、私も何度か行っていますけれども、あの写真の写り具合も大変すばらしく、兵庫DCのガイドブックで活用するなど、広く魅力を発信しております。

観光本部では、兵庫が誇るノリ工場の見学、そして地域の人々の温かさを肌で感じてもらえる塩屋の商店街をガイドと一緒に巡るというコンテンツも商品化してしまして、新しい切り口でこの地域の魅力の発見を仕掛けているというところがございます。

令和6年6月には、須磨で水族園などが新設ホテルとともに全面開業をします。秋には、垂水でマリニピア神戸もリニューアルということで、これから神戸市の西部エリアに注目が集まるというふうに考えています。

こういった施設とプラスして体験型コンテンツを加えまして、特に、2030年の神戸空港の国際化を見据えまして、神戸市と連携を図りながら誘客の拡大、地域の活性化につなげてまいります。

04 生成AIの本格導入の早期実現

「AIをアシスタントにして生産性を高めるほうが有意義だ。AIを使いこなす力が業務効率を左右する。だから、多くの人々に早く慣れてもらいたい。」

「実際に使うことで、良さも限界も体感できる。生成AIは、もはや使うか使わないかではなく、どう使うのか。AIと人間が最強のタッグになる方法を考えていくべき。その上で、知見を貯めて、どんどん楽になりましょう。試行錯誤の結果を共有しましょう。貯まった知見を定期的にまとめて、兵庫県ならではの効率化を進めるプロンプト集をつくるべし。」以上は、県のアドバイザー大植氏等識者の発言。全くそのとおりだと考えます。

生成AIを業務活用できる職員は、一定水準以上のAI人材足り得る。時代に即し

たスキルアップを図れるように、研修や仕事のやり方をブラッシュアップして頂きたい。

県庁、出先等全ての職員の皆さんが生成AIを業務で活用する日が一日でも早く到来することが望ましいと、こう考えますが、当局のご所見を伺います。

答弁：No.11 企画部長（守本豊）

chatGPTなどの生成AIは、幅広い業務の生産性向上に活用できる画期的な技術とされており、本県も5月に若手職員のプロジェクトチームを設置し、活用方針の検討を進めているところです。大植氏などアドバイザーの助言も得ながら、これまでプロジェクトチームのメンバーが日々の業務での活用実証を行って参りました。作業時間の短縮により、企画立案に充てる時間が増え、また、効率化した時間を県民と接する業務に振り向けることのできた職員もいました。こうした結果も踏まえまして、今後職員が日常的に利用できる環境の整備を進めて参りたいと考えております。具体的には、利用上の注意点をまとめたガイドラインを作成した上で、入力情報がAIの学習に利用されない安全なシステム環境の整備ですとか、全ての職員を対象にした研修機会の提供、あるいは有効な活用法を示すプロンプト集の充実などを行って参ります。

また、既に立ち上げております市町との勉強会での意見を踏まえまして、県、市町合同の研修、あるいはアドバイザーの派遣など、市町への支援も進めて参ります。

表面に続く ➡